

\*\*\*\*\*

隔週刊「農業文化マガジン『電子耕』」 第 376 号

—環境・農業・食べ物など情報の交流誌—

2015.03.13（金）発行 山崎農業研究所&編集同人

<キーワード>

環境・農業・健康・食べ物などの情報提供、高齢者と若者、農村と都市の交流ミニコミ誌。山崎農業研究所&『電子耕』編集同人が編集・発行。

<http://www.yamazaki-i.org>

\*\*\*\*\*発行部数 1044 部\*\*\*\*\*

前回の発行からあつという間に 2 ヶ月が過ぎてしまいました。

読者の皆さん、寄稿いただいた皆さん、ごめんなさい。

3.11 から 4 年が経ちました。

いろいろなことがありすぎて、忙しすぎて、被災地への思いが数年前とくらべて薄くなっていないか……。 「人を亡くす」と書いて「忙しい」と読む。金八先生ではありませんが、反省することしきりです。

---

□ 目 次 □-----

<巻頭言> USA へのコメ輸入枠 5 万トンの貢ぎもの

——あきれた TPP 日米交渉 塩谷哲夫

<投稿> 密約は犯罪・売国の行為だけでなくその代償も大きい

——TPP では密約の可能性はないか 益永八尋

<お知らせ> 山崎農研編「平成のマドンナ」シリーズ No.8 完成しました

<編集後記> 大きな言葉・いさましい言葉ではなく

---

巻頭言 USA へのコメ輸入枠 5 万トンの貢ぎもの——あきれた TPP 日米交渉

---

TPP に関する日米交渉で、日本が無関税か低関税で、最大で年 5 万トン程度の米国産主食用米を輸入する特別枠を設けること、また、牛肉は 38.5%の関税を 15 年程度かけて 9%に下げ、豚肉は 1 キロ 482 円の関税を 10 数年かけて数十円に下げる案を“検討”していることがわかったと報道された（朝日新聞 2015.01.31）。この記事を読んだとき、私は“まさか！”と驚いた。

コメは、1993 年の GATT・ウルグアイラウンド農業協定の結果、MA 米として年間 77 万トンを入力している。この量は、日本一の新潟県産の約 66 万トンより多い。「ミニマム・アクセス」なのだから「義務」ではないらしいのだが、保管費等、かなりの出費をしながら、政府は毎年全量輸入している。しかも、どう

いうわけか知らないが、その半分近くの 36 万トン米を米産が占めている。これは、栃木県産に匹敵する。ちなみに、今回アメリカに貢ごうとする 5 万トンという、高知県の 1 万 5 千農家が約 1 万ヘクタールの水田で、精魂込めて育てたイネが作り出したコメの生産量に相当する\*

これら輸入米の数量を、単なる数字としてではなく、それが意味するところ、そして、その影響の大きさを、なるべく実感をもって受け止めてほしいと思って、読者の皆さんが想像しやすい日本の現実に当てはめてみたわけである。日本の年間のコメ生産量 850 万トン前後の 1 割弱とはいえ、MA 米の存在が、外食<弁当などの事実上の主食を含む>、加工食品への使用等、市場を通じて、日本のコメ政策にかなりの影響を与えていると思う。

ちなみに、もうひとつ加えるならば、その裏では、昨年産の 1 俵 (60 kg) のコメ代金は、生産費：約 1 万 6 千円 (資本利子・地代等を算入した平成 24 年産米の場合) の半分の 8 千円程度にしかないという惨状にあるということである。

交渉に当たっている日本政府代表団は、こんな日本の農業の現状を知っているのだろうか。わかっているが… “国益” のためには、そんなことはちっぽけな存在だと思っているのだろうか。

NHK 朝ドラの『マッサン』でこんなシーンがあった。憲兵がエリーさんを英国のスパイだとして連行しようとする。「国家のため」と言いながら…。こんな暴挙を「なんてひどいことをするんだ」と思いながら観ている多くの人々がいてくれて、私はよかったと思う<この番組は TV 視聴率 No.1>。当時、ほとんどの国民は、そんなことを言えないどころか、いつの間にか、エリーさんに石を投げる側、憲兵の随伴者になってしまっていたのだから。

ところが、民主憲法下にある今日なのに、私たち国民は、TPP の交渉で政府が何をやっているのかを見るところか、その情報一切が秘密にされていて、国会議員でさえ知りえない。国会で質問されても安倍首相は答えない！。まるで時代が戦時中に逆戻りしてしまったかのようだ。『マッサン』の視聴者の皆さんに、こちらにも気づいてほしい。

安倍政権の、国民の暮らしと権利をないがしろにした所業、その一方、殿様には袖の下から貢物をちらつかせるような卑劣な悪行を、私は見過ごすわけに

はいかない。国の現状を無視して、国民をアメリカに売り渡す TPP 交渉から、即刻脱退すべきである\*\*。2013 年の参院選で公約した自らの宣言「交渉脱退も辞さず」を実行してほしい。

\*【注】

5 万トンのコメは、アメリカの見渡す限りの広大な水田で、飛行機でタネを撒いて作る稲作なら、せいぜい数社程度の生産量にしか当たらないのかもしれない。日米の稲作には、生産規模や、生産環境、農法、生産効率などにおいて、これほどの違いがある。しかし、TPP は、そんなことは一切無視して、世界を彼らの市場主義基準によって制覇しようとする究極のグローバリズムである。私は、そんな蛮行を認めるわけにはいかない。

\*\*【注】

『電子耕』351〈2013.5.2〉, 353〈2013.5.30〉, 359〈2013.10.24〉参照。

塩谷哲夫

山崎農業研究所幹事

yamazaki@yamazaki-i.org

---

<投稿> 密約は犯罪・売国の行為だけでなくその代償も大きい  
——TPP では密約の可能性はないか

---

日本農業新聞（2015 年 2 月 7 日付け 2 面）は『20 年前の交渉当事者が証言今も生き続ける「密約」【注 1】』（山田優編集委員）との見出しで報道した。この報道が事実であれば、密約は犯罪・売国行為であると言わざるを得ない。もっとも、日本政府は公式には「米国产の米輸入量を保証している事実はない」と言い続けているが、密約に関してはこの問題だけではなく存在する。「密約」として有名なものは、沖縄返還時の核持ち込みやその他の問題での密約（沖縄密約と言われている）が存在している。そして、沖縄密約では「一、二審判決は、沖縄返還を巡る日米交渉の過程で密約文書が作成されたことは認めており、最高裁もこの判断は維持した。（西山貴章）」【注 2】とされている。外国の例では、ヤルタ密約【注 3】が有名である。この密約によって、日本は千島列島を旧ソ連に占領され、その後成立したロシアにおいて引き続き占領され続けている。以上の他に密約は多数存在する。

国と国が結ぶ条約や商取り引きの契約だけでなく、すべての契約行為に密約は存在してはならない。そのことを自覚し、当事者は条約や契約を締結するための交渉を行うことが当然である。それが、国民から負託された政治家の仕事であり、密約することは負託されていない。密約は犯罪行為であり、政治家だから許されるという性質のものではない。

密約を結ぶ国や法人や個人は、進歩性がないだけでなく信用されないということである。そして、密約を提起した側は、今後の様々な交渉においても負の遺産となり続ける。このことについて日本農業新聞では「米国は今、日本に同国産の主食用米輸入数量を保証するよう迫っているという。20年たつて新たな日米農産物交渉が始まった今でも、密約は生き続けている」と指摘するだけでなく「高価な米産物を優遇することで発生する財政負担が」あり、「農水省の最新資料では50万トンを飼料に向けに売却すれば200億円、援助に売却すれば同400億円の差損が出る試算が示されている」とも報道している。これらの差損が20年間続けられていることにより、日本国民の損失額は単純計算で総額4000～9000億円になる。

日本政府のように、密約が事実として明白になっても「密約は存在しない」などと言い続けることは、事実を隠ぺいするという犯罪行為だけではなく、日本を誤った方向に導く危険性が高く、日本国民は将来に渡って永く負の遺産を引き継ぐことになる恐れが強い。仮に、密約の存在が明らかになった場合には、時の政権は直ちにその事実を認め、当事国だけでなく国民にも知らせるのが責務である。ましてや「密約の存在はない」などと居直った態度をとるべきではない。それと同時に密約を結ばさせない国民の声を大きくし、安易に「密約」を提案するような外交交渉から脱却することが大事ではないか。また、マスコミが密約の事実を知った時には、単に事実の報道だけをすれば良いというものではなく、密約のもつ危険性や売国性・犯罪性そして多数の国民にとって密約がいかに害になっているか又はなりつつあることを国民に知らせることがマスコミの役割ではないかと考える。

日本の歴代政府は国民に内緒にした「密約」を結ぶのが好きなようである。この傾向は今後も引き継がれる可能性が高いと言わざるをえない。

今、TPP交渉が政府によって進められているが、この交渉が成立する時には、「密約」が結ばれる危険性がある。日本政府は、交渉が行き詰ったときには、これまでの経験から判断すれば「密約」を結ぶ戦術をとる可能性がかなり高い。

TPP の交渉内容について、その解説も含めて広く国民に知らせることがマスコミの役割ではないか。このことをマスコミに大いに期待したい。

参考資料：下記資料を参考にした

注 1

[http://www.mofa.go.jp/mofaj/gaiko/mitsuyaku/pdfs/hokoku\\_yushiki.pdf](http://www.mofa.go.jp/mofaj/gaiko/mitsuyaku/pdfs/hokoku_yushiki.pdf)

注 2

[http://www.geocities.co.jp/Bookend-Yasunari/7517/nenpyo/1941-50/1945\\_yaruta\\_kaidan.html](http://www.geocities.co.jp/Bookend-Yasunari/7517/nenpyo/1941-50/1945_yaruta_kaidan.html)

注 3

<http://www.asahi.com/articles/ASG7G5HRNG7GUTIL03K.html>

益永八尋

山崎農業研究所幹事

yamazaki@yamazaki-i.org

---

<お知らせ> 山崎農研編「平成のマドンナ」シリーズ No.8 完成しました

---

山崎農研編集「平成のマドンナ」シリーズ No.8(B5 版・30 ページ) が完成しました。既発行分も含め、電子版あるいは冊子で頒布しています。送料込み 500 円です。ご希望の方は [yamazaki@yamazaki-i.org](mailto:yamazaki@yamazaki-i.org) までご連絡ください。

(新刊)

No.8 家族経営協定でいきいき人生にトライ

栃木県那須塩原市

酪農・教育ファーム・レストラン 人見みゆ子さん

(阿久津加居聞き書き)

(既刊)

No.1 都市近郊に「オアシス牧場」を

埼玉県上尾市 榎本美津子さん (小井川敏子聞き書き)

No.2 世羅高原のそよ風になりたい

広島県世羅町 井上幸枝さん (後由美子聞き書き)

No.3 むらにまちに子どもたちにふるさとの味を伝えたい

鳥取県鳥取市 西山徳枝さん (小泉浩郎聞き書き)

No.4 働きやすい作業環境の改善

徳島県 藍住地区のお母さん達 (小林徳子聞き書き)

No.5 「奥久慈の味」から広がる出会い

茨城県大子町 齊藤キヌ子さん (臼井雅子聞き書き)

No.6 デパートに進出した農村女性

栃木県宇都宮市 アグリランドシティショップ (阿久津加居聞き書き)

No.7 貧しさに学びこころ豊かに生きる

群馬県嬭恋村 丸山みち子 (丸山みち子著)

No.8 家族経営協定でいきいき人生にトライ

栃木県那須塩原市 人見きみ子さん (阿久津加居聞き書き)

No.9 (近刊) 月に手が届く山間農家に嫁いで

高知県土佐町 和田計美さん

---

<編集後記> 大きな言葉・いさましい言葉ではなく

---

集団的自衛権に関する憲法解釈変更の閣議決定が行なわれたのが去年の7月、年末には茶番ともいえる衆議院選があり(12月14日)、その直後には、海外への武器(装備品)輸出に関する国の支援のあり方を検討する有識者会議が発足された(12月18日)。その後、イスラム国(ISIL)による邦人人質殺人事件が起きている。

この事件についてはさまざまな論評がされているが、わたしとしては、この事件の契機となったのは安倍首相の中東訪問だといわざるをえない。安倍首相は今回の訪問前に邦人の誘拐事件を知っていた。訪問したのは中東といってもエジプト、イスラエル、ヨルダンなどアメリカと密接に繋がっている国である。難民支援と言いながら、その数がいちばん多いトルコは訪問していない。こうしたなかでイスラエルで演説をぶち首相と握手をし、エジプトで「イスラム国と戦う中東諸国を“人道的に”支援する」と言い、イスラム国側に「日本は英米同様、我々の敵である」と明言されたのである。一連のうごきは、安倍首相の「積極的平和主義」の側からすれば筋がとおっているかもしれないが、その代償は想像されている以上に大きいかもしれない。

この事件後、2月10日の閣議決定による新たな「開発協力大綱」では、外国軍や軍関係者が関与する活動への支援について、災害後の復旧・復興などの非軍事分野で、軍事転用の恐れがないことを条件に初めて容認を明記した。非軍

事分野に限定されてきた ODA の方向転換である。エジプトでの首相の演説をさらに一步すすめたという見方はうがちすぎだろうか。

もちろんイスラム国の非道な行ない、とりわけテロを許してよいはずはない。しかし、そのことと、米英などと同じ路線を選択することは、本来別であるはずだ。現代イスラム研究センター理事長の宮田律氏は『『イスラム国』の支配下に置かれた人たちは、いま国際社会から一番忘れている』と述べている（朝日新聞 2015 年 2 月 3 日）。大きな言葉・いさましい言葉で語られるとき、こぼれおちるものがたしかにある。しかし、そのこぼれおちるもののなかにこそ、人びとの暮らしの実があるのではないか。

2015 年 03 月 12 日

山崎農業研究所会員・田口 均

yamazaki@yamazaki-i.org

---

山崎農業研究所編・発行／農山漁村文化協会発売  
『自給再考——グローバリゼーションの次は何か』

（発売：2008/11 定価：1,575 円）

[http://shop.ruralnet.or.jp/b\\_no=01\\_4540082955/](http://shop.ruralnet.or.jp/b_no=01_4540082955/)

たくさんの書評・紹介記事をいただいています。感謝・感謝です。

---

◎辻信一さん（文化人類学者、ナマケモノ倶楽部世話人。明治学院大学教授）  
グローバルの次は何？ ～卒業するゼミ生諸君へ

<http://www.sloth.gr.jp/tsuji/library/column64.html>

◎戒谷徹也さん（大地を守る会）

ブログ：大地を守る会のエビちゃん日記 “あんしんはしんどい”

「自給率」の前に、「自給」の意味を

<http://www.daichi.or.jp/blog/ebichan/2008/12/16/>

◎吉田太郎さん（長野県農業大学校教授、執筆者）

キューバ有機農業ブログ 自給再考の本が出ました

[http://pub.ne.jp/cubaorganic/?entry\\_id=1822182](http://pub.ne.jp/cubaorganic/?entry_id=1822182)

◎関良基さん（拓殖大学政経学部）

ブログ：代替案 書評：『自給再考——グローバリゼーションの次は何か』

<http://blog.goo.ne.jp/reforestation/e/cb22650fa39384bdd22b61440fa81fa0>

◎大内正伸さん（イラストレーター・ライター）

ブログ：神流アトリエ日記（3）「書評『自給再考』」

<http://sun.ap.teacup.com/applet/tamarin/20081204/archive>

◎ブログ：本に溺りたい グローバリゼーションの次は何か

<http://renqing.cocolog-nifty.com/bookjunkie/2009/01/post-841e.html>

◎森川辰夫さん

NPO 法人 農と人とくらし研究センター／資料情報

<http://www.rircl.jp/shiryo.htm>

◎日本農業新聞／書評

（2009/01/19 評者：日本農業新聞編集委員 山田優）

<http://yamazaki-i.org/>

（画面トップの「書評はこちらから」よりアクセス下さい）

◎小谷敏さん（大妻女子大学）

日本海新聞コラム「潮流」／「自給」の方へ（2009/01/31）

<http://blog.goo.ne.jp/binbin1956/e/c895f6619b30ba7725e264b4daa75219>

◎白崎一裕さん（(株) 共に生きるために）

月刊とちぎV ネットボランティア情報 vol.158／しみん文庫

<http://yamazaki-i.org/>

（画面トップの「書評はこちらから」よりアクセス下さい）

◎塩見直紀さん（半農半X 研究所、執筆者）

ブログ：半農半Xという生き方～スローレボリューションでいこう！

立国集。

<http://plaza.rakuten.co.jp/simpleandmission/diary/200812270000/>

---

◎お願い「<読者の声>の投稿規定・メールの書き方」

---

1、件名（見出し）を必ず書いて下さい。「はじめまして」は省略して、言いたいことを具体的に。

2、氏名・ハンドルネームは、文末ではなく始めのほうに。

3、1回1テーマ、10行位に。

4、ホームページを持っている人は、文末に URL を。

5、JIS X0208 規格外の文字（機種依存文字）のチェックを。

<http://www.chem.sci.osaka-u.ac.jp/networks/check/jisx0208.html>

インターネットで使えない丸数字や半角カタカナ、括弧入り略号などは文字化けの原因です。

-----  
次回 377号の締め切りは03月23日、発行は03月26日の予定です。

---

<本誌記事の無断転載を禁じます>

\*\*\*\*\*

隔週刊「農業文化マガジン『電子耕』」 第376号

最新号・バックナンバーの閲覧

<http://archive.mag2.com/0000014872/index.html>

<http://nazuna.com/tom/denshico.html>

購読申し込み／解除案内

<http://www.yamazaki-i.org>

2015.03.13（金）発行 山崎農業研究所&編集同人

<mailto:yamazaki@yamazaki-i.org>

\*\*\*\*\* ここまで『電子耕』 \*\*\*\*\*